

動物園遊 び

女高師附屬幼稚園海の組

卒業する前に、何か一つ面白い事をして遊びたい、然し玩具屋は度々でもう飽きたし何にし様かしら、と色々考へた末やつと思ひついたのが、此の動物園遊びで御座いました。始めは動物を粘土細工でするつもりで御座いましたが、冬で御粘土も出来ないので、全部畫用紙とキビガラで致しました。象はこゝいふ家に入れ、兎はこゝして草原に遊ばせて、と計畫した時はもう立派なく、動物園が出来て居りましたが、愈々仕事に取りかゝつて見ますと分らない事ばかりで、幾度か計畫例れになりかゝりました。第一動物の色ですら分らない物があり、柵と言ひおりと言つても不斷ぼんやり

見過して居る私共には、さつぱり見當がつきませんでした。やむを得ず或雨の日、丁度御仕事も暇なので園丁は傘を並べて上野の山に動物園を訪れました。そして一生懸命で動物の様子や、柵の様子等を見て歸り忘れない中にと、次の日から開園準備に取りかかりました。丁度○先生が切紙の材料に澤山の動物の畫を御持ちでしたから先づそれを拜借して子供に切らせたり、子供の國の御本の中から切り抜いたり、畫の好きな一郎さん達が畫用紙で切つたり致しました。大層足の太い兎や、獅子よりも大きいベリカンや、馬と同じ位に小さな象や、滑稽な動物ばかり集りました。象、羊、

麒麟、駱駝、獅子、馬、驢馬、河馬、カンガルー、栗鼠、兎、猿、鷓、七面鳥、孔雀、鳩、小鳥、ベリカン、おしどり、其他二三種で子供と大仲好しの熊と、虎を集める事が出来なかつた事を、本當に残念に思ひました。

動物の準備が出来たので今度は御家にかかりました。象の家はキビガラを四方にたてて柱にし、畫用紙と色紙で屋根を作りました。其の中に細いく色紙で鍵（輪つなぎ）を作つて二匹の小象をつなぎました。

次に駱駝、麒麟、羊、カンガルー等は畫用紙で柵を作つて四方を圍ひ其の中に立たせました。兎ちゃんやカンガルーと一緒にして、可愛い御家も立ててやりました。一番苦心致しましたのは小鳥と猿の御家でした。金網ではり廻らせば簡単に済みますけれど、それではあまりに興味がないので、キビガラを兩端に置いて其れにヒゴを渡

したものを、幾つもく作つて、あとから糸で結び合せました。これでやつと鳥籠の様な御家が出来ましたので、其の中に止り木と藁の巢を作つて澤山の小鳥を入れました。やつと鳥籠の形になつたと思つて、ホット、する間もなくヒゴが、ピンとはねて折角のがすつかりこわれてしまふ事も何度か御座いました。其の度に子供達は、ワア／＼と「これは面白がつて居りました。先生私の鳩も入れて」「これは先生カナリヤです」とクレオンで黄色に塗つた鳥を持つて来る人もあつて、籠は見る／＼一ぱいになりました。猿の網もそれを大きく作つて、中に御家とブランコをキビガラで作つて三匹の御猿を入れました。獅子は上野では岩の上に居りましたが、この動物園では厚紙で家を作つて鐵柵をヒゴで作り其の中に納めました。こんなにしてそれ／＼の御家が出来上りました。子供達はお机の上に並べられた動物を見て「先生早く動

物園ごつこしたいな」等と言つて居りました。次は植木と餌を作りました。大根、仁參、泥鰌、御煎餅、等をクレオンで書いては切り抜きました。

「先生仁參が出来ました」もう一匹泥鰌が出来ましたよ」と次から次へと太い／＼仁參やら、蛇の様な泥鰌が澤山に出来て忽ち餌箱は一ぱいになりました。幾日間か長い間かゝつて、やつと準備が終りました。けれ共この事があつた爲に例年より雪の多かつたこの冬を、少しも苦勞なしに面白く過して参りました、之れだけでも本當によかつたと思ひました。子供達は一日千秋の思ひで楽しい開園の日を待つて居りました。開園の前日は朝から子供と一緒に、御室の裝飾やら配置に取りかかりました。色紙を細く切つて女の人が輪つなぎをすれば、男の人は半紙に日の丸を書いて旗を作つたり皆よく御手傳ひしました。

海の組動物園に面白い動物が澤山参りました。

あした九時半から、皆さん見に来て下さい。

中にはこんなポスターを、方々の組や先生方に配つて歩く郵便屋さんも居りました。御室の中は旗や輪つなぎで飾り入口に入場券賣場と餌賣場を設けました。そして子供達は明日早く来る事、御休みしない事を約束して、皆明日を楽しみに歸りました。

いよ／＼當日になりました。入口の前には定刻前から澤山の小さなお客様が詰めかけて「まだ」「まだ」と待つて居りました。愈々開園致しますと我先にと飛び込んで来て入場券は羽のはえた様に飛んで行きます。あまりの忙しさに氣かぬ氣の純ちやんもまじ／＼して居ります。

ゑさを買つて象に投げて居る人、羊に紙を食べさせる人、まるで本當の動物園の様です。

「ヤツ 正ちゃんの栗鼠が居た」「正ちゃんは居ないね」

「先生、この鳩可愛いわね」ヤア象がクサリでつながれてらあ」

あちからからも、こちからからも賑やかな嬉し相な話し聲が致します、一度見て又暫くしてもう一度、又一廻り、二度ならず三度も四度も入園しては戯れて居るのでいつもく、お客は一ぱいでした。其の間に交つて、海の組の方は無くなつた餌を集め



たり、入口の整理をしたりして、くるく、働いて居ります。私は黙つて此の光景を見て居りました。

そして自分のこの拙い計畫を僅か一時間でも、二時間でも心から、幼児が喜んでくれたと思ふと嬉しくてく、涙がにじみ出るのを覚えるので御座いました。